

平成 27年度 第2回 第2回 CPD 協議会シンポジウム

イノベーションを牽引する人材の育成

日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム代表
理化学研究所 理事 / 東京大学 監事
有信睦弘

Notable 20th Century Innovations

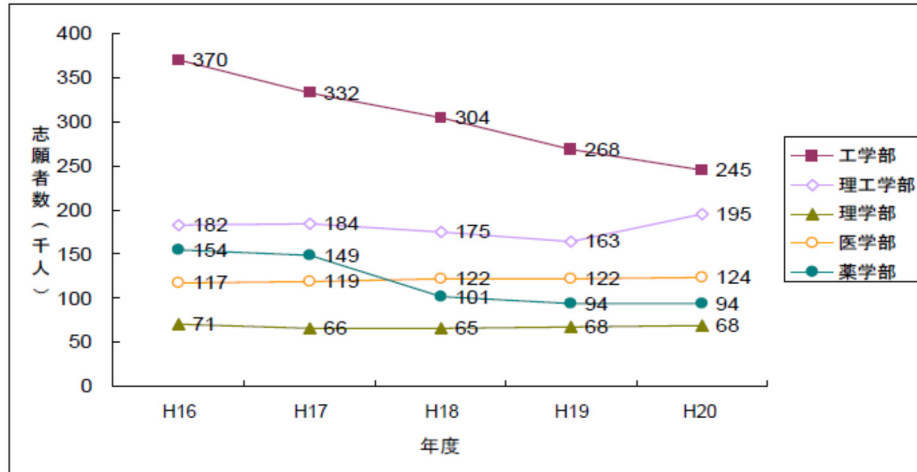
year	idea
1917	Sneakers
1923	Business management
	Multiplane camera
1924	Frozen food
1926	Rocket engine
1929	Synthetic rubber
1934	Nylon
1938	Xerography
1939	Automatic transmission
	Helicopter
1942	Electronic digital computer
1945	Nuclear power
1947	Cellular phone
	Tupperware
	Microwave oven
1950	Diners Club card
1951	Levittown
1952	The conglomerate

year	idea
1955	Fast food
1956	Containerized shipping
	Disk drive
1959	Three-point seat belt
1962	Modem
1965	Consumerism
1968	Mouse
1969	Charge-coupled device (CCD)
1970	Compact disc
1972	Computed tomography (CT)
1976	Personal computer chic
1984	Liquid crystal displays (LCD)
1987	Prozac (anti-depressant)
1991	World wide web (WWW)
2000	Automated sequencing machine (for human gene analysis)

Mostly, driven by technological breakthroughs

Source: "85 Years & Ideas" Forbes Magazine, December 23, 2002.

理系学部志願者数推移



出所) 文部科学省学校基本調査より NRI 作成

科学技術人材育成シンポジウム

— 科学技術人材育成コンソーシアムのスタートにあたって —

- 主催**：日本工学会（科学技術人材育成コンソーシアム）、日本学術会議（土木工学・建築学委員会、機械工学委員会）
- 共催**：科学技術振興機構（JST）、日本技術士会、日本工学アカデミー、日本経済団体連合会、日本機械学会、電気学会、土木学会、日本化学会、応用物理学会、日本鉄鋼協会、日本材料学会、日本工学教育協会、（敬称略）
- 後援**：文部科学省、経済産業省、国土交通省
- 日時**：平成 22 年 5 月 15 日（土）10：00～17：00
- 場所**：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
- 開催趣旨**：
わが国の未来を切り開くために必須である科学技術人材育成について、特に青少年の科学技術に対する関心の増進と国民の科学技術と技術者に関する理解を深める方策について、産官学及び学協会間で情報交換を行うとともに、今後の推進方策や協力体制などについて議論を行う。
- 次第司会**：谷下一夫（日本工学会理事）
 - 開会挨拶** 10.00～10.10
挨拶 岸輝雄（日本工学会会長）
挨拶 大垣真一郎（日本学術会議副会長）
 - 来賓挨拶** 10.10～10.40
文部科学省、経済産業省、国土交通省
 - 趣旨説明** 10.40～11.00
有信睦弘（日本機械学会会長）
 - 基調講演** 11:00～12.00
大橋秀雄（工学院大学理事長）
泉 紳一郎（文部科学省 科学技術・学術政策局 局長）
 - 講演** 13.00～15.00
- ユニバーシティコンソーシアム：野口博（千葉大学工学部長）
- かがわけん科学体験フェスティバル：北林雅洋（香川大学教育学部教授）
- 学会の取り組み：松瀬貞規（電気学会会長）
- GOCH（産業競争力懇談会）の取り組み：渡邊浩之（トヨタ技監）
- NPO 日立理科クラブの取り組み：永田一良（副代表理事、日本技術士会元副会長）
- JST の取り組み：有本建男（JST 社会技術研究開発センター長）
 - 総合討論** 15.20～17.00
司会：笠木伸英（東京大学教授）
パネルディスカッション方式で、課題や今後の方向性について討論
有本建男（JST 社会技術研究開発センター長）、北林雅洋（香川大教授）、松瀬貞規（電気学会会長）、渡邊浩之（トヨタ技監）、柴田裕一（読売新聞科学部次長）
 - 閉会挨拶**
桑原洋（日本工学会副会長）
- 申込先・問合せ先**
社団法人 日本工学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館 6 階
TEL：03-5765-8002 FAX：03-5765-3219、担当：加賀 kaga@jfes.or.jp
氏名、所属、電話番号を記載して E-mail または FAX でお申し込みください。
HP からダウンロードできます。 <http://www.jfes.or.jp/>

日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアム
「第2回 科学技術人材育成シンポジウム」開催案内

開催趣旨

各方面での科学技術人材育成の実践事例を紹介する。また、「大学と社会の接点」と題したパネルディスカッションで、国・経済界・大学・マスコミの各方面よりパネリストを招き、大学から産業への接点での人材育成の課題を取り上げ、討論を行う。

開催概要

日時：平成23年1月22日(土) 12:30~16:40
会場：日本学術会議講堂（東京港区六本木7-22-34、地図：<http://www.sci.go.jp/ia/other/info.html>）
主催：日本工学会（科学技術人材育成コンソーシアム）
共催：日本学術会議（土木工学・建築学委員会、機械工学委員会）
共催：科学技術振興機構、日本技術士会、日本工学アカデミー、日本技術者教育認定機構、日本機械学会、電気学会、計測自動制御学会、地盤工学会、日本非破壊検査協会、日本溶接協会、日本建築学会、映像情報メディア学会、日本塑性加工学会、資源・素材学会、日本マリンエンジニアリング学会、日本金属学会、日本顕微鏡学会、軽金属学会、土木学会、日本工学教育協会、日本鉄鋼協会、日本電機工業会、科学新聞社
後援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、日本経済団体連合会、朝日新聞社、河川環境管理財団
参加費：無料

プログラム

総合司会：松瀬 貢規（コンソーシアム副代表者）

12:30~12:35 開会挨拶 日本工学会会長 岸 輝雄

12:35~13:00 基調講演 「渴望される高度技術者教育実現への道」 日本工学会副会長 桑原 洋

13:00~14:40 初等中等教育における新しい試み―事例紹介

1. 「経済産業省の理科・工学離れ対策成果事例～社会人講師活用型教育支援プロジェクト・

早期工学人材育成事業の成果事例報告～」 三菱総合研究所 主席研究部長 中村 肇

2. 「JSTの科学技術人材育成施策」 科学技術振興機構 理数学習支援部長 岩渕 晴行

3. 「河川環境管理財団の取り組み」 河川環境管理財団 水辺サポートセンター長 河崎 和明

4. 「小学6年生理科『電気の利用』授業で活かせる(JEMA)教育支援活動について」

日本電機工業会 理科教育支援WG 主査/パナニック(株) ホームアライアンス社 広報渉外G 参事 内田 雅章

5. 「大学発教育支援コンソーシアム推進機構」 東京大学教授 三宅 なほみ

14:40~14:50 休憩

14:50~16:30 パネルディスカッション「大学と社会の接点―科学技術人材育成―」

コーディネーター：笠木 伸英（コンソーシアム副代表者）

パネリスト：文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長 板倉 周一郎

東京大学教授・前工学系研究科長 保立 和夫

青山学院大学教授・理工学部長 林 洋一

産業競争力懇談会(COCON)実行委員/富士通研究所顧問 吉川 誠一

リクルートワークス研究所長 大久保 幸夫

朝日新聞社・編集委員 山上 浩二郎

16:30~16:40 閉会挨拶 池田 駿介（コンソーシアム代表者）

東日本大震災



科学技術人材育成コンソーシアム		
第3回科学技術人材育成シンポジウム(1.21)		
開催趣旨		
今回の未曾有の大震災の被災を一つの契機として、我国の科学技術人材育成の課題を改めて見直しすことを目的に、阿部博之東北大学名誉教授による基調講演と「大震災と科学技術人材育成」と題するパネルディスカッションを行う。パネルディスカッションでは、国・経済界・大学・初等中等教育界等の各方面よりパネリストを招き、広い角度からの議論を行う。このほか一般講演として、各方面での理科教育についての最新の実践事例を紹介する。		
開催概要		
日時:	平成24年1月21日(土) 13:00~17:00	
会場:	日本学術会議講堂(東京港区六本木7-22-34) 地図: http://www.sci.go.jp/ja/other/info.html	
主催:	日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム	
共催:	日本学術会議(土木工学・建築学委員会、機械工学委員会) 科学技術振興機構、河川環境管理財団、軽金属学会、電気学会、産業競争力懇談会、土木学会、日本工学会アカデミー、日本機械学会、日本技術士会、日本技術者教育認定機構、日本建築学会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本非破壊検査協会、日本マリンエンジニアリング学会、日本塑性加工学会	
後援:	(申請中)文部科学省、経済産業省、国土交通省、日本経済団体連合会、朝日新聞社	
参加料:	無料	
定員:	150名(定員に達し次第締め切ります。)	
プログラム		
総合司会	筈本 伸英(コンソーシアム副代表)、松井幹彦(コンソーシアム幹事)	
13:00~13:05	開会挨拶	池田 駿介(コンソーシアム代表)
13:05~13:30	基調講演	岐路に立つ日本—カラバゴス化からの決別に 向けて
(13:30~15:10)	理科教育支援における新しい試み—事例紹介	講師:東北大学名誉教授 阿部 博之 講 師
13:30~13:50	講演1. 理科・エネルギー教育の最近の動き	独立行政法人 科学技術振興機構(JST) 理数学習支援部長(兼 理科教育支援セン ター企画室長) 岩淵 晴行
13:50~14:10	講演2. 電気学会における初等中等教育支援	社団法人 電気学会「電気理科クラブ」 代表 谷口 元
14:10~14:30	講演3. STeLA(Science and Technology Leadership Association)の活動紹介	STeLA(科学技術分野の国際人材育成学 生団体)学生代表 中根 拓
14:30~14:50	講演4. 大震災に関連した河川整備基金による子ども たちへの支援について	財団法人 河川環境管理財団研究第1部 部長 藤兼 雅和
14:50~15:10	講演5. 子どもにやさしい町復興計画	こども環境学会 理事長 仙田 満
15:10~15:20	休 憩	
15:20~16:50	パネルディスカッション:大震災と科学技術人材育成(仮) コーディネーター:有信 睦弘(東京大学監事、コンソーシアム顧問) パネリスト:(予定)大学関係、行政、産業界、教育界等からパネリストを招聘	
16:50~17:00	閉会挨拶 松瀬 貴規(コンソーシアム副代表)	

第7期大学分科会の審議事項について

1. 社会経済構造の変革を踏まえた大学改革の在り方
2. 求められる知識・技能の変化に対応した学修機会の充実
3. 大学の質保証の充実
4. 我が国の大学のグローバル化の促進
5. 大学のガバナンスの在り方
6. 短期大学の機能の充実
7. 大学院教育の在り方
8. 法科大学院教育の改善

分野別質保証の取組の推進

- 高度専門人材の育成に向けて、大学及び高等専門学校における分野別質保証の構築・充実に向けた取組を促進する。
- また、日本学術会議において審議が進んでいる「分野別の教育課程編成上の参照基準」は、各大学における改革サイクルの確立に際して重要な参考となるものと考えられるため、各大学や認証評価機関の活用を促す。

科学技術人材育成コンソーシアム 「第4回科学技術人材育成シンポジウム」 工学教育の新しい展開に向けて —グローバル化への現状と課題—

開催趣旨：

今回のシンポジウムでは、大学における工学教育の問題を取り上げます。「工学教育の新しい展開に向けて—グローバル化への現状と課題—」のテーマの下に、東京大学元総長吉川弘之氏による基調講演「工学教育の新しい展開に向けて（仮）」に続いて、質保証、国際化、認定制度、高大接続の観点から、それぞれの分野の第一人者にご講演頂きます。また、最後に講演者全員によるパネル討論を行い、工学教育のグローバル化に向けての現状と課題について、掘り下げた討論を行います。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

開催概要

日時： 2013年2月9日（土） 13:00～17:00
会場： 日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）
主催： 科学技術人材育成コンソーシアム
日本学術会議（土木工学・建築学委員会、機械工学委員会）
共催： 科学技術振興機構、日本技術士会、日本工学アカデミー、日本技術者教育認定
(順不同) 機構、日本機械学会、電気学会、土木学会、日本建築学会、日本非破壊検査協
会、日本マリンエンジニアリング学会、日本塑性加工学会、計測自動制御学会、
日本鋳造工学会、日本工学教育協会
後援（予定）：文部科学省、経済産業省、国土交通省、日本経済団体連合会、朝日新聞社
参加料： 無料 定員：200名

プログラム（敬称略）

総合司会： 松瀬貢規 コンソーシアム副代表、松井幹彦 コンソーシアム幹事
13:00～13:10 開会挨拶 有信睦弘 コンソーシアム代表

基調講演

13:10～13:40 「工学教育の新しい展開に向けて（仮）」
東京大学元総長、科学技術振興機構研究開発戦略センター長 吉川 弘之

講演

13:40～14:10	「工学教育における質の保証と学位課程プログラム」 金沢工業大学 学園長・総長	黒田 壽二
14:10～14:40	「国内外の工学教育の状況（仮）」 朝日新聞論説委員	辻 篤子
14:40～15:10	「国際化する JABEE（仮）」 中央大学教授	牧野 光則
15:10～15:40	「高大接続教育（仮）」 岡山大学大学院教授	垂水 共之
15:40～15:55	（休憩）	

パネル討論

15:55～16:55 「工学教育のグローバル化への現状と課題（仮）」
コーディネータ： 笠木伸英(コンソーシアム顧問)
パネリスト： 吉川 弘之、黒田 壽二、辻 篤子、牧野光則、垂水 共之
の各講演者に加え、工学院大学教授 野口 博

16:55～17:00 閉会挨拶 依田 照彦 コンソーシアム副代表

義務教育修了段階の子ども達の学習成果

OECD・PISAショック（2003,06年）などを受け、子ども達の学習時間は増加
 平日授業以外に3時間以上勉強する中3 4.6%（01年）⇒10.3%（10年）
 PISA調査・レベル5以上の層は厚い ⇔ 他方、レベル1未満の割合も相対的に高い

PISA2009におけるレベル5以上の生徒の国際比較

【読解力】

順位	国名	人数(人)	比率	OECD内比率
1位	アメリカ	406,270	9.9%	29.4%
2位	日本	162,360	13.4%	11.7%
3位	韓国	92,514	12.9%	6.7%
4位	フランス	71,982	9.6%	5.2%
5位	ドイツ	64,755	7.6%	4.7%
	OECD合計	1,381,875	7.6%	100%

【数学的リテラシー】

順位	国名	人数(人)	比率	OECD内比率
1位	アメリカ	406,270	9.9%	17.6%
2位	日本	253,233	20.9%	11.0%
3位	韓国	182,877	25.5%	7.9%
4位	ドイツ	151,664	17.8%	6.6%
5位	フランス	102,724	13.7%	4.4%
	OECD合計	2,309,185	12.7%	100%

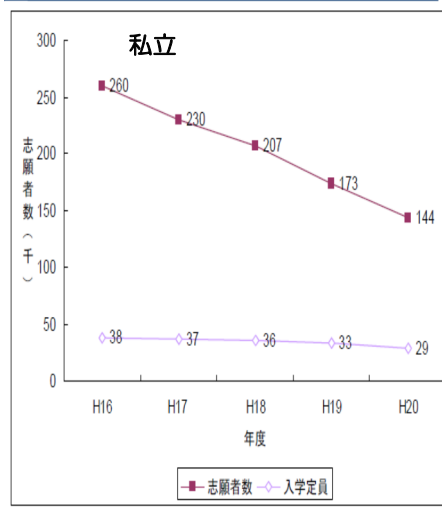
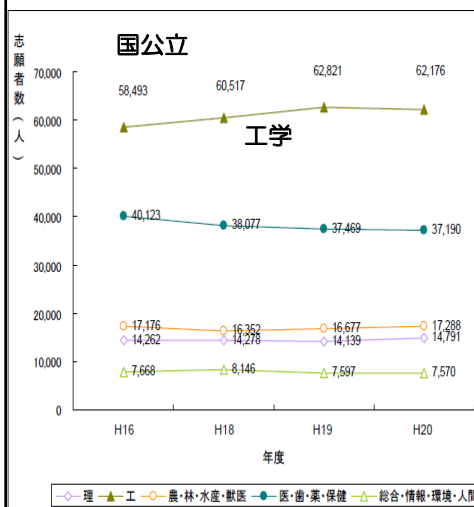
【科学的リテラシー】

順位	国名	人数(人)	比率	OECD内比率
1位	アメリカ	377,544	9.2%	24.4%
2位	日本	205,979	17.0%	13.3%
3位	ドイツ	109,062	12.8%	7.1%
4位	イギリス	89,675	11.4%	5.8%
5位	韓国	83,191	11.6%	5.4%
	OECD合計	1,545,518	8.5%	100%

※OECD加盟34ヶ国中上位5ヶ国比較
 当該年齢推定人口×レベル5以上の生徒の割合

文部科学省合田氏BUP講演資料から

工学離れとは？



出所) 旺文社 HP などより NRI 作

出所) 旺文社 HP などより NRI 作成

日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアム
「第5回科学技術人材育成シンポジウム」
 科学技術リテラシーの向上に向けて
 ～若者の理科離れは改善されたか～

開催趣旨
 科学技術立国として発展してきた我が国にとって若者の理科離れ・技術離れが深刻な問題として認識されて以来、多方面で様々な取り組みが行われ、この問題の解決には若年層に限らず広く国民の科学技術リテラシーの向上が重要と認識されつつあります。今回のシンポジウムでは、「科学技術リテラシーの向上に向けて」のテーマの下に、日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム代表 有信 睦弘による特別講演「イノベーションと人材育成の課題」に続いて、小学校から大学までのそれぞれの課程における理科離れの現状と取り組み、およびその効果についてご講演いただきます。その後、パネル討論によって、総合的な観点から科学技術リテラシー向上についての課題と今後の取り組みについて討論を行います。多くの皆様のご来場をお待ちいたします。

開催概要
日時： 2014年2月8日（土） 13:00～17:00
会場： 日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
主催： 日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアム
 日本学術会議（土木工学・建築学委員会、機械工学委員会）

【コンソーシアム正員(学協会)】： 計測自動制御学会、電気学会、土木学会、日本技術士会、日本技術者教育認定機構、日本建築学会、日本工学会アカデミー、日本機械学会、日本塑性加工学会、日本非破壊検査協会、日本マリンエンジニアリング学会

後援： 文部科学省、経済産業省、国土交通省、科学技術振興機構、日本経済団体連合会、日本経済新聞社
参加料： 無料 **定員**： 200名

プログラム（敬称略）
総会司会： 廣瀬 壮一（コンソーシアム幹事）
 13:00～13:10 **開会挨拶** 有信 睦弘（コンソーシアム代表）

特別講演
 13:10～13:40 「イノベーションと人材育成の課題」
 日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアム代表 有信 睦弘

講演
 13:40～14:10 「子どもたちの学力の現状 — PISA 等の国際調査結果から —」
 國學院大学人間開発学部初等教育学科教授 猿田 祐嗣
 14:10～14:40 「スーパーサイエンスハイスクールの現状と課題」
 独立行政法人 科学技術振興機構 植木 勉
 14:40～15:10 「大学教育の参照基準の目指す人材育成」
 東京理科大学大学院科学教育研究科教授 北原 和夫
 15:10～15:40 「若者の理科離れは改善されたか」
 日本経済新聞社編集委員 横山 晋一郎
 15:40～15:55 （休憩）

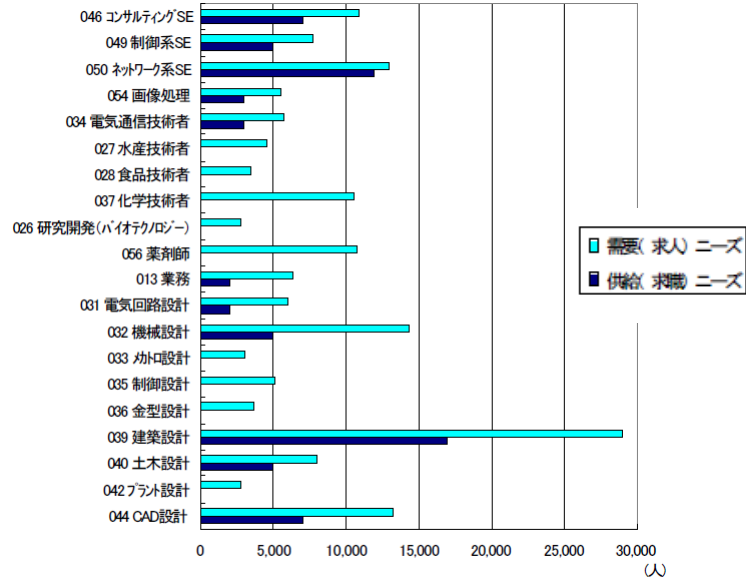
パネル討論
 15:55～16:55 「科学技術リテラシー向上についての課題と今後の取組み」
 コーディネータ： 松瀬 貢規（コンソーシアム副代表）
 パネリスト： 猿田 祐嗣、植木 勉、北原 和夫、横山 晋一郎の各講演者に加え
 有信 睦弘（コンソーシアム代表）
 16:55～17:00 **閉会挨拶** 依田 照彦（コンソーシアム副代表）

大学教育と社会の期待のミスマッチへの取組みの例：米国

- **Keynote Discussion: A Conversation with the Cleveland Clinic about the Potential of Data Science in Health Care Facilitated by Barbara R. Snyder, president, Case Western Reserve University**
- **Plenary Session I: Building the Talent Ecosystem: Strategic Collaborations between Business and Higher Education in Data Science Facilitated by William E. Kirwan, II, chancellor, University System of Maryland**
 - Ohio State University with IBM
 - Humana with Bellarmine University
- **Plenary Session II: BHEF's Cybersecurity Expansion Strategy: Greater Washington, D.C., Virginia, and the Commonwealth of Massachusetts Facilitated by Wes Bush, chairman, CEO, and president, Northrop Grumman Corporation**

Business Higher Education Forum Summer Meeting 2014 から

日本の状況（経産省）



日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアム 「第6回科学技術人材育成シンポジウム」 —科学技術コミュニケーションの展開と人材育成—

開催趣旨：

国民が科学技術を身近に感じ、強い関心を抱くような社会をつくり上げていくためには、研究者・技術者と社会との間の双方向のコミュニケーションを促進することなどにより、国民が科学技術に触れ、体験・学習できる多様な機会を提供することが必要になります。今回のシンポジウムでは、よりよい社会を形成していくために、科学技術者が社会と双方向でどのようなコミュニケーションをいかにとっていくべきなのか、仕組みや科学技術者の求められる資質や人材育成について討論を行います。

開催概要：

日時：2015年2月14日（土） 13:00～17:00

会場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

主催：日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアム

主催：日本学術会議（土木工学・建築学委員会、機械工学委員会）

【コンソーシアム構成学協会・機関(50音順)】：計測自動制御学会、電気学会、土木学会、日本機械学会、日本技術士会、日本技術者教育認定機構、日本建築学会、日本工学会アカデミー、日本塑性加工学会、日本電機工業会、日本非破壊検査協会

後援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、科学技術振興機構、日本経済団体連合会、読売新聞社

参加料：無料 定員：200名

プログラム（敬称略）

総合司会：松村暢彦（コンソーシアム幹事）

13:00～13:10 開会挨拶 有信睦弘（コンソーシアム代表）

基調講演

13:10～13:50 「科学・技術コミュニケーションの展開」

東京大学大学院理学系研究科准教授 横山広美

講演

13:50～14:10 「科学技術コミュニケーションの政策に関する情報提供」

松尾泰樹

14:10～14:30 「科学技術コミュニケーション活動の実態」

文部科学省大臣官房参事官

独立行政法人 科学技術振興機構科学コミュニケーションセンター

藤田尚史

14:30～14:50 「専門家と世間のコミュニケーション—大学の實力調査から」

読売新聞東京本社社長直属学事支援部

松本美奈

14:50～15:10 「自然現象の見える化の必要性

～数値表示の本質を受け止めることを一般教養に～」

早稲田大学理工学術院教授 小峯秀雄

15:10～15:25 （休憩）

パネル討論

15:25～16:55 「これからの科学技術コミュニケーションと人材育成」

コーディネータ：依田照彦（コンソーシアム副代表）

パネリスト：横山広美、松尾泰樹、藤田尚史、松本美奈、小峯秀雄

16:55～17:00 閉会挨拶 松瀬真規（コンソーシアム副代表）

日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアム
「第7回科学技術人材育成シンポジウム」(案)
—科学技術人材育成の課題と解決策—

開催趣旨：
 科学技術の水準の向上により、我が国並びに人類社会の持続的な発展に貢献することを目的に制定された科学技術基本法に基づき、これまで約20年間にわたって科学技術基本計画が策定され、実行されてきました。それらの中で人材育成は、我が国の競争力を強化し、持続的な発展を実現するため極めて重要ですが、解決すべき多くの課題があります。今回のシンポジウムでは、行政、教育機関、産業界など多方面からパネリストを招き、幅広い観点から人材育成に関する課題と対応について議論します。

開催概要：
日時： 2016年2月13日(土) 13:00~17:00
会場： 日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34)
主催： 日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアム
 日本学術会議

【コンソーシアム会員学協会・機関(50音順)】：計測自動制御学会、電気学会、土木学会、日本機械学会、日本技術士会、日本技術者教育認定機構、日本建築学会、日本工学会アカデミー、日本塑性加工学会、日本電機工業会、日本非破壊検査協会

後援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、科学技術振興機構、日本経済団体連合会

参加費： 無料 定員：200名

参加申込： 別紙の「参加申込書」に記入後、電子メールまたはFAXにて、日本工学会事務局にお送りください。

問合せ先：公益社団法人日本工学会事務局
 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-2-2 森戸記念館3階
 電話：03-6265-0672 FAX：03-6265-0673 メール：eng@jfes.or.jp

*****プログラム(敬称略)*****

総合司会：西方正司 コンソーシアム幹事

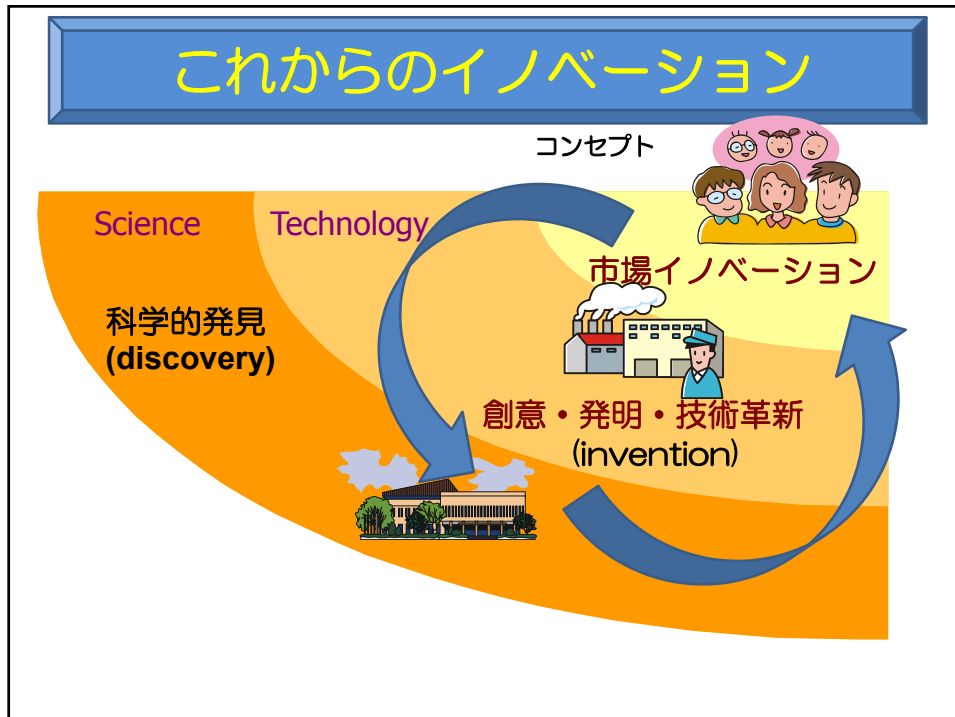
13:00~13:10 開会挨拶 有信睦弘 コンソーシアム代表

基調講演
 13:10~13:50 「将来を支える人材育成には何が必要か？」 東京大学名誉教授 高橋 裕

講演
 13:50~14:10 「キャリア教育としての探求活動」 京都市立堀川高等学校企画研究部長 飯澤 功
 14:10~14:30 「社会の求める人材を育成する教育機関の課題と解決策」 東京工業大学教授 岸本喜久雄
 14:30~14:50 「行政から見た人材育成の課題と教育機関への期待」 文部科学省初等中等教育局審議官 藤原章夫
 14:50~15:10 「産業界からみた教育機関の課題と解決策」 日産自動車フェロー 久村春芳
 15:10~15:25 (休憩)

パネル討論
 15:25~16:55 「科学技術人材育成の課題と解決策」
 コーディネータ：松瀬貞規 コンソーシアム副代表
 パネリスト：高橋 裕、飯澤 功、岸本喜久雄、藤原章夫、久村春芳

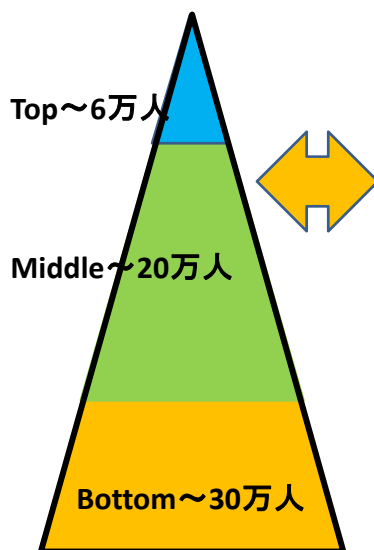
16:55~17:00 閉会挨拶 依田照彦 コンソーシアム副代表



将来の選択一筋でガエルにならないために

- 過去の成功体験からの脱却
- チームワークの醸成
- 人材流動化の促進
- 大学院教育と大学院制度の確立
- 様々な観点での多様性の追求
- グローバルな視野或いは俯瞰的視野
- K-16教育或いは人材育成

博士課程への進学者は必要十分か？



- 理・工・農系博士号取得者数
(2005年、100万人当たり)
 - 日本 : 56人
 - 米国 : 74人
 - ドイツ : 124人
 - 英国 : 144人
 - 韓国 : 120人
- 大学・大学院入学者数 (学校基本調査2014年)
 - 学部 ~ 600,000人
 - 大学院博士前期課程 ~ 73,000人
 - 大学院博士後期課程 ~ 15,400人
(⇔旧帝大の入学者数 ~ 19,000人)

何を改革すべきか？

- 機能分化の一層の推進
 - 学部と大学院の機能分化
 - 大学院の機能分化
 - 大学の機能分化
 - 選抜の多様化と厳格化、学位基準の厳格化
- 学位プログラムの推進—博士課程
 - 設置認可制度の見直し⇔中教審と設置審
 - リーディング大学院をベースとした博士課程の再構築
 - 企業と連携した優秀層の博士課程進学者の確保
- 研究拠点群の形成
 - お山の大将から研究拠点へ⇔研究者の循環
 - 国立研究所、企業と連携したイノベーション拠点の創生
- 社会と社会人の要求に応える
 - それぞれの階層での社会人の受入れ
 - 必要とされる基盤知識と実務知識の教育

機能分化の一層の推進

